

### V-2-1. 「パートナーシップ性」と関連のある要因

相談職の「パートナーシップ性」と関連のある要因を把握するために、表 3-V-2 に示す 3 項目合計の平均点得点（素点合計値/項目数）を従属変数とし、基本属性（性別、年齢、学歴、月収、専門職としての経験年数、在宅介護支援センター経験年数）、職場要因（担当ケース数、アウトリーチ時間の保障）と研修（ロールプレイのある研修の有無、派遣による研修参加頻度、自主的に受講する研修参加頻度、機関の研修体制）のそれぞれを独立変数とする一元配置の分散分析および t 検定を行った。その結果、有意な関係が認められた独立変数は、表 3-V-2-1 に示す「担当ケース数」「アウトリーチ時間の保障」「自主的に受講する研修参加頻度」の 3 つの要因である。

「担当ケース数」では、「51 ケース以上」が 4.06 と最も高く、次いで「11～30 ケース」が 3.97、「31～50 ケース」が 3.90、「10 ケース以下」が 3.77 となっており、50 ケース以上が 10 ケース以下より平均値が有意に高い結果となった。これらの結果から担当ケース数によって相談職員のパートナーシップ性に差があることが認められた。

「アウトリーチ時間の保障」については、「保障されている」が 4.02、「保障されていない」が 3.88 となっており、アウトリーチの時間を保障されている専門職の方が、そうでない専門職よりも平均値が有意に高い結果となった。すなわち、アウトリーチする時間が確保されている者のほうが、パートナーシップ性が高い傾向があることが認められた。

「自主的に受講する研修参加頻度」については、「よく受講する」が 4.16 と最も高く、次いで「時々受講する」が 4.02、「たまに受講する」、「受講したことがない」は 3.85 となっており、「よく受講する」が「たまに受講する」より平均値が有意に高い結果となった。すなわち、自主的に外部の研修に参加する頻度が高い者のほうが、パートナーシップ性が高い傾向があることが認められた。

表 3-V-2-1 「パートナーシップ性」と関連のある要因

要因	要因のカテゴリー	N(人)	平均値	標準偏差
担当ケース数 F 検定 F 値 = 3.96 有意確率 $p < .01$	10 ケース以下	54	3.77	0.52
	11～30 ケース	90	3.97	0.53
	31～50 ケース	89	3.90	0.51
	51 ケース以上	93	4.06	0.53
	合計	326	3.94	0.53
アウトリーチ時間の保障 t 検定 t 値 = 2.43 有意確率 $p < .05$	保障されている	168	4.02	0.52
	保障されていない	153	3.88	0.51
	合計	322		

表 3-V-2-1 「パートナーシップ性」と関連のある要因（続き）

要因	要因のカテゴリー	N(人)	平均値	標準偏差
自主的な研修の受講 F 検定 F 値 = 4.93 有意確率 $p < .01$	受講したことがない	40	3.85	0.52
	たまたに受講する	140	3.85	0.54
	時々受講する	111	4.02	0.51
	よく受講する	37	4.16	0.49
	合計	328	3.94	0.53

### V-3. 利用者から学ぶ態度

「利用者から学ぶ態度」に関する項目は、表 3-V-3 に示すように、2 項目とも 4.3 以上の高い平均値を示した。特に、「利用者から学ぶことがあると感じる」の設問では平均値 4.81 と高い数値を示し、多くの専門職が、利用者から学ぶことがあると感じていることがうかがえる。

表 3-V-3 利用者から学ぶ態度

項目	度数	平均値	最小値	最大値
V8 利用者からも学ぶことがあると感じる	339	4.81	2	5
V9 利用者の予期せぬ変化に心を動かされたことがある	338	4.31	2	5

#### V-3-1. 「利用者から学ぶ態度」と関連のある要因

「利用者から学ぶ態度」と関連のある要因を把握するために、表 3-V-3 に示す 2 項目合計の平均得点（素点合計値/項目数）を従属変数とし、基本属性（性別、年齢、学歴、月収、専門職としての経験年数、在宅介護支援センター経験年数）、職場要因（担当ケース数、アウトリーチ時間の保障）と研修（ロールプレイのある研修の有無、派遣による研修参加頻度、自主的に受講する研修参加頻度、機関の研修体制）のそれぞれを独立変数とする一元配置の分散分析を行った。その結果、有意な関係が認められた独立変数は、表 3-V-3-1 に示す「性別」「アウトリーチ時間の保障」の 2 つの要因である。

「性別」については、「男性」が 4.47 であり、「女性」が 4.61 となっており、女性が男性よりも平均値が有意に高い結果となった。すなわち、女性のほうが、利用者から学ぶ態度が高い傾向があることが認められた。

「アウトリーチ時間の保障」については、「保障されている」が 4.63 であり、「保障されていない」が 4.52 となっており、アウトリーチの時間を保障されている専門職の方が、そうでない専門職よりも平均値が有意に高い結果となった。す

なわち、アウトリーチする時間が確保されている者のほうが、利用者から学ぶ態度が高い傾向があることが認められた。

表 3-V-3-1 利用者から学ぶ態度に関連のある要因

要因	要因のカテゴリー	N(人)	平均値	標準偏差
アウトリーチ時間の保障 t 検定 t 値=2.43 有意確率 p<.05	保障されている	168	4.02	0.52
	保障されていない	153	3.88	0.51
	合計	322	4.57	
性別 t 検定 t 値=2.48 有意確率 p<.05	男性	115	4.47	0.47
	女性	222	4.61	0.46
	合計	337	4.56	

#### V-4. 自己の感情コントロール

自己の感情コントロールに関しては、表 3-V-4-1 に示す反転項目 2 項目を設置した。反転項目のため、得点の高い人ほど自己の感情がよくコントロールされていることを意味している。「価値観の違いが表情に出る」が 2.73、「利用者の話に関心がもてない」が 3.00 と共に低い平均値を示しており、多くの専門職が、完全には自己の感情をコントロールできていないと感じていることが推測される結果となった。

表 3-V-4-1 自己の感情コントロール

項目	N(人)	平均値	最小値	最大値
V.11R 利用者の価値観が自分の価値観と大きく異なっていた場合、驚きの表情を顔に出す。(反転)	339	2.73	1	5
V.13R 利用者の経験・価値観が自分とかけ離れている場合、利用者の話に関心をもてないことがある(反転)	337	3.00	1	5

#### V-4. 「自己の感情コントロール」と関連のある要因

相談援助専門職自身の「自己の感情コントロール」と関連のある要因を把握するために、表 3-V-4 に示す 2 項目合計の平均点得点（素点合計値/項目数）を従属変数とし、基本属性（性別、年齢、学歴、月収、専門職としての経験年数、在宅介護支援センター経験年数、担当ケース数、アウトリーチ時間保障）と研修（ロールプレイのある研修の有無、派遣による研修参加頻度、自主的に受講する研修参加頻度、機関の研修体制）のそれぞれを独立変数とする一元配置の分散分析お

よび t 検定を行った。その結果、有意な関係を示す独立変数は認められなかった。

## V-5. 自己の価値観への気づき

相談援助専門職自身の「自己の価値観への気づき」に対する質問では、「自分のライフスタイルについて振り返る」の平均値が 4.18 と最も高く、「利用者を受容する妨げとなる自分の価値観を理解している」の平均値が 3.40 と最も低かった。すなわち、専門職は自分のライフスタイルや考え方についてはよく振り返りをするが、自己の価値観を把握し、利用者の多様な考え方を受容する妨げとなる価値観を理解することに対してはやや意識が低いことをうかがわせる結果となった。

表 3-V-5 自己の価値観への気づき

項目	N(人)	平均値	最小値	最大値
V.12 利用者を受容する妨げとなる自分の価値観の理解している	337	3.40	1	5
V.14 自己の価値観の把握している	338	3.70	1	5
V.15 自分のライフスタイルについて振り返って考えることがある	338	4.18	1	5
V.16 利用者の言動に対し起こる自分の感情に注意を向けている	337	3.78	1	5
V.17 自己の行動・ものの考え方の傾向に対する気づいている	337	3.91	2	5

### V-5-1. 「自己の価値観への気づき」と関連のある要因

相談援助専門職自身の「自己の価値観への気づき」と関連のある要因を把握するために、表 3-V-6 に示す 5 項目合計の平均得点（素点合計値/項目数）を従属変数とし、基本属性（性別、年齢、学歴、月収、専門職としての経験年数、在宅介護支援センター経験年数）、職場要因（担当ケース数、アウトリーチ時間の保障）と研修（ロールプレイのある研修の有無、派遣による研修参加頻度、自主的に受講する研修参加頻度、機関の研修体制）のそれぞれを独立変数とする一元配置の分散分析を行った。その結果、有意な関係が認められた独立変数は、表 3-V-6-1 に示す「アウトリーチ時間の保障」「自主的に受講する研修参加頻度」の 2 つの要因である。

「アウトリーチ時間の保障」については、「保障されている」が 3.89 であり、「保障されていない」が 3.73 となっており、アウトリーチの時間を保障されている専門職の方が、そうでない専門職よりも平均値が有意に高い結果となった。す

なわち、アウトリーチする時間が確保されている者のほうが、自分の価値観への気づきが高い傾向があることが認められた。

「自主的に受講する研修参加頻度」については、「よく受講する」が 4.04 と最も高く、次いで「時々受講する」が 3.84、「たまに受講する」が 3.78、「まったくしない」は 3.56 となっており、「よく受講する」が「たまに受講する」より平均値が有意に高い結果となった。すなわち、自主的に外部の研修に参加する頻度が高い者のほうが、自分の価値観への気づきが高い傾向があることが認められた。

表 3-V-5-1 「自分の価値観への気づき」と関連のある要因

要因	要因のカテゴリー	N (人)	平均値	標準偏差
アウトリーチ時間の保障 t 検定 t 値=2.52 有意確率 p<.05	保障されている	168	3.88	0.54
	保障されていない	153	3.72	0.57
	合計	322		
自主的な研修の受講 F 検定 F 値=5.31 有意確率 p<.01	受講したことがない	40	3.56	0.61
	たまに受講する	143	3.78	0.57
	時々受講する	109	3.84	0.50
	よく受講する	37	4.04	0.58
	合計	32	3.80	0.56

## V-6. その他

その他の項目として表 3-V-6-1 に示す反転項目を設置した。反転得点で平均値は 1.85 と低く、多くの人々が「利用者をかawaiiそうと思うことがある」と回答している。すなわち、多くの専門職が、素直な感情として「かawaiiそう」と感じているのではないかと推測される。

なお、この項目は単独項目のため、平均値を用いた有意差検定は行っていない。

表 3-V-6-1 その他

項目	度数	平均値	最小値	最大値
V.1R 利用者をかawaiiそうと思うことがある (反転)	339	1.85	1.00	5.00

資 料

質 問 紙

## 「相談援助の専門的技法に関する基礎調査」のお願い

高齢社会を迎えるにあたり、介護サービスの充実が必要と考えられております。当研究室では、介護サービスの質の向上について研究を進めております。

そこで、今回、当研究室では、相談援助専門職の方々を対象に、「相談援助の専門的技法に関する基礎調査」を実施させていただくことになりました。調査内容は、高齢者やご家族の方々などに対して相談援助を行う場合、相談援助専門職の方々がどのようになさっているのかの現状を捉えようとするものです。また、本調査は決して個人を評価するものではなく、相談援助における専門的技法を明らかにしようとするものです。お忙しいところ、まことにお手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

つきましては、本アンケートに回答をご記入の上、**2月10日までに**、同封の返信用封筒にてご返送いただきますようお願いいたします。

なお、本調査は、大阪市立大学 生活科学研究科 障害者・高齢者福祉学分野研究室（代表 教授 白澤政和）が行うものであり、結果の集計、分析などの処理は慎重に行い、**個人の情報は絶対に漏らさぬよう、万全の体制をとっております。**また、調査の結果は、数字の処理のみで行いますので、**個人のお名前が出るようなことは決してございません。**この調査についてのご質問がございましたら、下記の担当までご連絡をお願いいたします。

平成13年1月

大阪市立大学 生活科学研究科

障害者・高齢者福祉学分野研究室

教授 白澤政和

### お問い合わせ先

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学 生活科学研究科

**障害者・高齢者福祉学分野研究室**

電話 06-6605-2858・2913

担当 太刀掛、山田、鳥海、赤松、畑、岡田、白澤

## ご回答にあたって

以下の質問の場面設定を初期の面接に限るものとします。利用者やそのご家族などに対して相談面接を行うにあたって、日常業務の中であなたがどのように対応されているのかをおたずねします。なお、本調査の質問文中、「利用者」とは高齢者ご本人をいい、「家族」とは高齢者のご家族や親戚縁者などをいいます。

### I. 面接環境に関連しておたずねします。以下のそれぞれの設問に対して、あなたご自身に最もあてはまると考えられるもの一つに○をつけて下さい。

1. 面接を行うとき、利用者の話を十分に聴けるように、あなたは心の余裕を持って臨んでいると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
2. 面接のある日、あなた自身の体調や疲労の程度を自覚していますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
3. あなた自身が体調不良や疲労状態である場合、何らかの工夫をすることによって、意識的に面接の集中力が散漫にならないようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
4. 面接の前には、あなた自身のポケットベルや携帯電話の音が鳴らないようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
5. 面接中に仕事の関係で携帯電話がかかってきたとき、電話に出ることがありますか。  
⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
6. あなたは忙しいとき、利用者とはあらかじめ約束していた面接を突然断ったり延期したりすることがありますか。  
⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
7. 面接をどこで行うか、利用者の意向に沿うようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

8. あなたの所属機関で面接を行う場合、部屋は落ち着いた雰囲気にはしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
9. あなたの所属機関で面接を行う場合、プライバシーに配慮していますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

**II. 利用者との関係性についておたずねします。以下のそれぞれの設問に対して、あなたご自身に最もあてはまると考えられるもの一つに○をつけて下さい。**

<個人の尊重>

1. あなたは、どんな人間も変化する可能性を持っていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
2. 援助専門職の仕事とは、人が本来持っている力を発揮できるように利用者を支援していくことだと思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
3. あなたは、利用者のできないことよりもできることに着目して相談援助を進めていくようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
4. あなたは、利用者の意識レベルが低下しているような場合でも、その人の年齢にふさわしい言葉遣い、態度を心がけていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
5. 人はこの世に生まれてきたというだけで、その存在が尊重されるべきだと思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
6. 人それぞれの個性というものは、他人の権利を侵さない限り、認められるべきだと思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
7. あなたは利用者に「何があろうとあなた(利用者)は大切な存在です」という姿勢で接していますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

8. 相談面接を行う場合、利用者よりも、もっぱら家族などの介護者と話をするようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
9. 施設やデイサービスなどの集団の間では、利用者も周りに合わせて、ある程度利用者自身の要求を抑えるべきだと思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
10. 利用者が地域の中で孤立しているような場合でも、あなたは利用者の立場に立って援助をしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
11. 利用者の現在の状況を理解する場合、それぞれのかげがえのない過去を尊重しながら理解するように努めていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
12. 「今までよくやってくれましたね」などと言って、利用者のこれまでの生き方を認めるようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
13. 高齢者の精神状態や身体の特徴というのはある程度共通性があるので、高齢者の基本原則を学べばあとはだいたいのケースに対応できると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
14. 利用者の価値観が古いものだと感じて、あなたは利用者の考え方を尊重することができていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
15. 相談援助にあたっては、利用者の家族が持つ独自の価値観、家庭内のルールに留意していますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
16. 相談を受ける際は、あなたの価値観や判断は脇に置き、利用者の立場に立って考えるようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

17. 利用者の価値観を受け入れがたく思っても、利用者の話をよく聴くことができていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
18. 社会通念上、利用者のももの見方を変える必要がある場合でも、あなたは内心で何らかの判断を加えずに受け入れることができていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
19. 利用者の現状認識や意見に明らかな飛躍があったとしても、あなたはできるだけそうした意向を受け止めるように心がけていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
20. 利用者の話に現実誤認や誇張が認められる場合、「それは間違っている」などと指摘せずに、利用者が話し続けやすいように配慮していますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

<利用者への気づかい>

21. 利用者をリラックスさせるように何か工夫していますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
22. 利用者には親しみを込めて接していますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
23. 利用者の態度や口調に不安感情が見られた場合、記録を中断するなどの配慮をしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
24. 利用者の話の進み具合や内容に応じて、あなたは利用者のほうに上体を乗り出すなど、話に関心があることを動作で示すようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
25. 利用者の話についていっていることを示すために、意識的にうなずいていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

26. 利用者との目の高さが異なる場合には、あなたは、しゃがむなどして利用者と同じ目の高さで話すようにしていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

27. 利用者があまり触れられたくないと思うようなことについてたずねる場合には、利用者の気持ちに十分配慮することができていると思いますか。

- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない

28. 利用者に対して威圧的にならないように、言葉遣いに気をつけていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

#### <利用者の理解>

29. あなたは、利用者のこれまでの経験を引き出し、それを活かすような相談援助を行っていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

30. あなたは、利用者の潜在能力を引き出すために、多様な見方で利用者の状況を把握するように努めていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

31. あなたと利用者との関係が、親子関係のような保護—被保護の関係になっていると感じることがありますか。

- ⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない

32. 利用者が話しているとき、伝えたいことの核心は何かを考えながら聴こうと努めていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

33. 利用者の話す内容のうち、利用者の周りに実際に生じている状況と、利用者が実際に行った行動とを見極めていると思いますか。

- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない

34. 利用者の現実誤認や誇張の背後にある感情をくみ取ることができていると思いますか。

- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない

35. あなたは、自分の経験したことのない困難に利用者が直面していた場合、これまでの経験を活用し推測することによって、その困難さを理解しようと努めていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

<自己決定>

36. 利用者の全体像を把握する前に、サービスに関する情報提供をしていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

37. あなたは、利用者が最善の判断を下せるよう、適切な情報を提供し、かつ選択の結果について話し合うようにしていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

38. 相談援助の過程の中で、利用者が物事を決めかねているとき、あなたは早く決められるように支援していますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

39. あなたは事情が許す限り、利用者本人が物事を決定するのを待つようにしていますか。

- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない

40. 生命や犯罪に関わらない限り、利用者の自己決定は尊重されるべきだと思いますか。

- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない

41. 痴呆症状のある人の場合でも、できるだけ利用者本人の意思を確認しながら相談援助を進めていくべきだと、あなたは思いますか。

- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない

**Ⅲ. 面接場面におけるコミュニケーションに関連しておたずねします。以下のそれぞれの設問に対して、あなたご自身に最もあてはまると考えられるもの一つに○をつけて下さい。**

1. 利用者をリラックスさせるために、面接が始まってすぐにユーモアを言うことがありますか。  
⑤かなりある    ④少しある    ③どちらともいえない    ②あまりない    ①ほとんどない
  
2. 面接の最初の場面で、利用者の気持ちをほぐすためにあなたから話すようにしていますか。  
⑤いつもしている    ④だいたいしている    ③どちらともいえない    ②あまりしていない  
①まったくしていない
  
3. 利用者が話しているときに、それを中断させたり、さえぎったりしてあなたから話しかけることがありますか。  
⑤かなりある    ④少しある    ③どちらともいえない    ②あまりない    ①ほとんどない
  
4. 面接の終わりの場面では、これまでの話を整理して方向づけるようにしていますか。  
⑤いつもしている    ④だいたいしている    ③どちらともいえない    ②あまりしていない  
①まったくしていない
  
5. 「どうぞ、続けてお話をください」「それで...?」などと言って、利用者の話を促していますか。  
⑤いつもしている    ④だいたいしている    ③どちらともいえない    ②あまりしていない  
①まったくしていない
  
6. 利用者の話した言葉で重要であると思われる部分を繰り返していますか。  
⑤いつもしている    ④だいたいしている    ③どちらともいえない    ②あまりしていない  
①まったくしていない
  
7. 利用者が話してきたことを確認するために、時々あなたの言葉でまとめて利用者にフィードバックしていますか。  
⑤いつもしている    ④だいたいしている    ③どちらともいえない    ②あまりしていない  
①まったくしていない
  
8. 利用者が沈黙してしまったとき、新しい話題をあなたから持ち出しますか。  
⑤いつもしている    ④だいたいしている    ③どちらともいえない    ②あまりしていない  
①まったくしていない
  
9. あなたは、利用者のテンポに合わせた話し方をしていますか。  
⑤いつもしている    ④だいたいしている    ③どちらともいえない    ②あまりしていない  
①まったくしていない

10. あなたは、利用者が面接中によく使う言葉をあなた自身も積極的に用いるようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
11. 利用者自身が解決すべき問題について気づくことができるようにするため、様々な角度から質問をするようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
12. 利用者の話が長くなったときなど、あなたから新しい話題に切り替えることがありますか。  
⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
13. 面接を行うとき、あなたは利用者の身だしなみや衣服の様子に注意を払うようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
14. 利用者の話を聴いているとき、あなたは利用者の動作や表情を捉えるようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
15. 利用者の話を聴いているとき、あなたは利用者の声色や口調の変化に気をつけるようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
16. 利用者の身だしなみ、動作、表情、声色などの背後にある気持ちをくみ取っていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
17. 利用者が話すことを戸惑っているとき、利用者が戸惑いながらも伝えようとしていることをくみ取ることができていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
18. 利用者が沈黙することによって、その場が重苦しいと感じたとき、その重苦しい時間を利用者と共有して、利用者が何らかの意思表示をするまで待つこともありますか。  
⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
19. あなたは、利用者の気持ちや気持ちの変化を敏感に感じ取ることができていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない

**IV. 秘密保持に関連しておたずねします。以下のそれぞれの設問に対して、あなたご自身に最もあてはまると考えられるもの一つに○をつけて下さい。**

1. 利用者との信頼関係を作る上で、利用者の秘密を守ることは欠かせないことだと思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
2. 相談援助を円滑に進めるため、利用者の考え方にかかわらず、専門職は可能な限り利用者のあらゆる情報を収集すべきだと思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
3. あなたは、面接の最初に利用者の個人情報を守られることを伝えていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
4. あなたの職場では、ケース記録は厳重に管理されていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
5. 人の生命の危機や緊急な状況になった場合、秘密保持の原則が破られることがあることを、あなたは前もって利用者に伝えていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
6. 仕事上、利用者の情報を外部に出すとき(たとえ匿名でも)、あなたは本人の了解を得るようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
7. あなたは、直接相談援助に必要なと思われる情報も利用者から聞くようにしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
8. あなたの所属する機関では、正規の職員以外の実習生やボランティアにいたるまで秘密保持は徹底されていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない

V. 相談援助にあたってのあなたご自身の考えや感じ方に関しておたずねします。以下のそれぞれの設問に対して、あなたご自身に最もあてはまると考えられるもの一つに○をつけて下さい。

1. あなたは、利用者が苦しんだり悲しんだりしているのを見て「かわいそう」と思うことがありますか。  
⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
2. 利用者の状況が、あなた自身が過去に経験したものと似ている場合、あなたの揺れ動く心をコントロールして冷静な判断や対応をしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
3. あなたは、利用者の怒りや混乱などに巻き込まれることなく、利用者を受け止めることができていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
4. 利用者があなたを不快にさせるような発言や動作をした場合、自分の不快な感情をコントロールして冷静な判断や対応をしていますか。  
⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
5. 利用者が周りの言うことを受け入れるのが難しくなっていると感じた場合でも、あなたは、利用者支援していこうとする態度を示し続けることができていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
6. あなたは、問題を解決することが非常に困難だと感じた場合でも、何らかの解決方法を見出そうとする態度を保ち続けることができていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ④あまりそう思わない ①そう思わない
7. あなたは利用者の苦しみを受け止めたとき、利用者とともに問題を解決していこうとする態度を保ち続けるようにしていると思いますか。  
⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
8. あなたは、日常の相談業務の中で、利用者からもいろいろと学ぶことがあると感じることがありますか。  
⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
9. あなたは、利用者が思いもしなかった変化を見せたことに、心を動かされたことはありますか。  
⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない

10. あなた自身に心配事が発生した場合、何らかの工夫をすることによって、意識的に不安定な心理状態を面接場面に持ち込まないようにしていますか。
- ⑤いつもしている ④だいたいしている ③どちらともいえない ②あまりしていない  
①まったくしていない
11. あなたは、利用者の価値観が自分の価値観と大きく異なっていた場合、素直に驚きの表情を顔に出すことがありますか。
- ⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
12. 利用者の話を受け入れることが困難な場合、あなた自身のどのようなものの見方が利用者を受容する妨げとなっているかを理解していると思いますか。
- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
13. 利用者の経験やものの見方があなた自身のそれとあまりにかけ離れている場合、利用者の話の内容に関心をもてないことがありますか。
- ⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
14. あなた自身の価値観がどのようなものを把握していると思いますか。
- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
15. あなたは、日常生活において自分自身のライフスタイルについて振り返って考えてみることはありますか。
- ⑤かなりある ④少しある ③どちらともいえない ②あまりない ①ほとんどない
16. あなたは面接中、利用者の言動に対して沸き起こる自分自身の感情にも注意を向けていると思いますか。
- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
17. あなたは、自分自身の行動やものの考え方の傾向に気づいていると思いますか。
- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない
18. あなたは、物事に対していろいろな考え方や見方をすることができていると思いますか。
- ⑤そう思う ④まあそう思う ③どちらともいえない ②あまりそう思わない ①そう思わない

VI. <基本属性>あなた個人のことについておたずねします。

1. 性別                            ①男                    ②女
2. 年齢                            \_\_\_\_\_ 歳
3. あなたの最終学歴を下記のうちから一つ選んで○をつけて下さい。
- ①中学校・高等小学校卒業                            ④短期大学・高等専門学校卒業  
②高等学校・旧制中学校卒業                            ⑤大学・大学院卒業  
③各種専門学校卒業
4. あなたの1ヶ月当たりの平均的な収入（税金も含む）はいくらですか。いずれか一つに○をつけて下さい。
- ① 5万円未満                            ② 5～10万円未満                            ③ 10～15万円未満  
④ 15～20万円未満                            ⑤ 20～25万円未満                            ⑥ 25～30万円未満  
⑦ 30～35万円未満                            ⑧ 35万円以上
5. あなたは、介護支援専門員の資格をお持ちですか。
- ①はい    ②いいえ
6. 下記のうちから、あなたの持つ資格すべてに○をつけて下さい。
- ①看護婦(士)・准看護婦(士)                            ⑥ホームヘルパー1級  
②保健婦(士)    ⑦ホームヘルパー2級  
③精神保健福祉士    ⑧療法士(P T・O T・S T)  
④社会福祉士    ⑨その他(具体的に    )  
⑤介護福祉士    ⑩資格なし
7. 専門職として仕事に従事した経験年数                            \_\_\_\_\_ 年
8. 在宅介護支援センターで従事した経験年数                            \_\_\_\_\_ 年

VII. あなたの所属されている機関に関しておたずねします。

1. あなたの所属される在宅介護支援センターは居宅介護支援事業者の指定を取っていますか。
- ① はい    ② いいえ

2. あなたの所属される在宅介護支援センターの形態は、基幹型、地域型のどちらですか。

①基幹型

②地域型

3. あなたの所属される在宅介護支援センターには、何人の職員が配置されていますか。居宅介護支援事業者を兼ねる場合には、介護支援専門員の数も含めてお答えください。

\_\_\_\_\_人

4. あなたの所属される在宅介護支援センターに併設の全ての機関を下記より選んで○をつけて下さい。

①老人ホーム

⑧訪問看護ステーション

②介護型医療施設

⑨ボランティアセンター

③老人保健施設

⑩社会福祉協議会

④ケアハウス

⑪行政機関

⑤病院・診療所

⑫保健所・保健センター

⑥通所型ケア施設

⑬居宅介護支援事業者

⑦ホームヘルプステーション

⑭その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

5. あなたの所属される機関の母体を下記よりあてはまるもの一つを選んで○をつけて下さい。

①社会福祉法人

②医療法人

③行政

④株式会社・有限会社

⑤その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

6. あなたの相談業務の形態について、下記よりあてはまるもの一つを選んで○をつけて下さい。

①在宅介護支援センター相談員専任

②介護支援専門員専任

③介護支援専門員と在宅介護支援センター相談員の兼任

④在宅介護支援センター相談員と他の業務兼任

⑤介護支援専門員と他の業務兼任

⑥その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

## VIII. あなたの業務についておたずねします。

1. あなたは、複数機関の実務者やケース担当者の参加のもとで開催される個別ケースのサービス調整会議（実務者レベルの高齢者サービス調整チームも含む）にどの程度参加されていますか。あてはまるもの一つに○をつけて下さい。

④いつも参加している ③ときどき参加している ②まれに参加している ①参加したことがない